

Experience 研修情報紹介

令和元年度良質な医師を育てる研修

国立病院機構では、毎年、多彩な内容で「良質な医師を育てる研修」を開催しています。豊富な経験を持つ先生方が講師を担当。実践的なスキルが身につく充実のプログラムを提供しています。今回は7月に行われた「センスとスキルを身につける未来を拓く消化器内科セミナー」と、9月に行われた「神経・筋（神経難病）診療中級研修」をご紹介します。

「センスとスキルを身につける！ 未来を拓く消化器内科セミナー」

消化器疾患に関わる知識や手技は幅広く、臨床経験の少ない医師にはさまざまなハードルがあります。今回の「センスとスキルを身につける！未来を拓く消化器内科セミナー」では、初期研修医・専攻医・専修医をはじめ、消化器内科のプロを目指す医師が立ち上がるために必要となる消化器疾患領域（上部消化管、下部消化管、肝臓、胆膵、腹部救急）をカバーするプログラムを企画しました。

1日目は、消化器疾患の診断と治療に必要な各種画像診断の基礎知識（腹部、CTやMRI検査など）を学ぶ講義のほか、救急疾患の画像診断、肝臓および胆膵領域の画像診断の演習を実施しました。2日目には、腹部超音波検査、ERCPの基本操作の講義のあと、4人1組のグループで7ブースに分かれ、内視鏡検査と内視鏡治療のハンズオンを行いました。集中的に手技が学べる実践的な内容が参加者の皆さんに好評でした。

参加者の声

〈参加者の声 1〉

2日目の演習のハンズオンでさまざまな手技（ESD、ERCP、上部下部、エコーなど）を体験させていただき、良い経験となりました。

〈参加者の声 2〉

臨床に沿った講義・演習が受けられて勉強になりました。ポイントを絞ってコツや知識を教えてくださいましたのも、とてもためになりました。

〈参加者の声 3〉

第一線で活躍されている先生方のお話をたくさん聞くことができ、密度の濃い2日間でした。

〈参加者の声 4〉

講義の数が多く、バラエティに富んでいたうえ、専門的な内容もあり、面白かったです。

〈参加者の声 5〉

普段の業務であればハードルの高い手技でも、ハンズオンで自由に触れることができました。上級医の先生方のご指導のもと、的確なアドバイスが得られたのも有意義でした。

〈参加者の声 6〉

放射線の講義はなかなか受ける機会がありませんが、画像診断の初歩的な部分から学ぶことができ、大変勉強になりました。もっと勉強したいです。

〈参加者の声 7〉

内視鏡を操作するにあたり、挿入方法やピロリ菌診断など、基礎的なところから教えていただいた点が良かったです。今後役に立ちます。

〈参加者の声 8〉

講師の先生方がやさしく丁寧に教えてくださったので、疑問点も聞きやすく実践的でした。

令和元年度 良質な医師を育てる研修

「センスとスキルを身につける！ 未来を拓く消化器内科セミナー」

対象：①初期研修医および後期研修医（専攻医ならびに専修医）

②卒後4年未満の医師

日時：令和元年7月19日（金）～20日（土）

会場：国立病院機構九州医療センター

参加者：28名

■ 研修内容

1日目

講義：肝疾患のCT、MR診断

講義：腹部救急の画像診断

演習I：救急症例

講義：内視鏡の基本操作、上部消化管内視鏡観察法

ミニクイズ：たかが腹単、されど腹単①

講義：完璧に理解するピロリ菌と胃炎診断

講義：内視鏡で消化管癌死亡数は激減できる！

講義：大腸内視鏡挿入の基本操作

講義：ERCPの基本操作

2日目

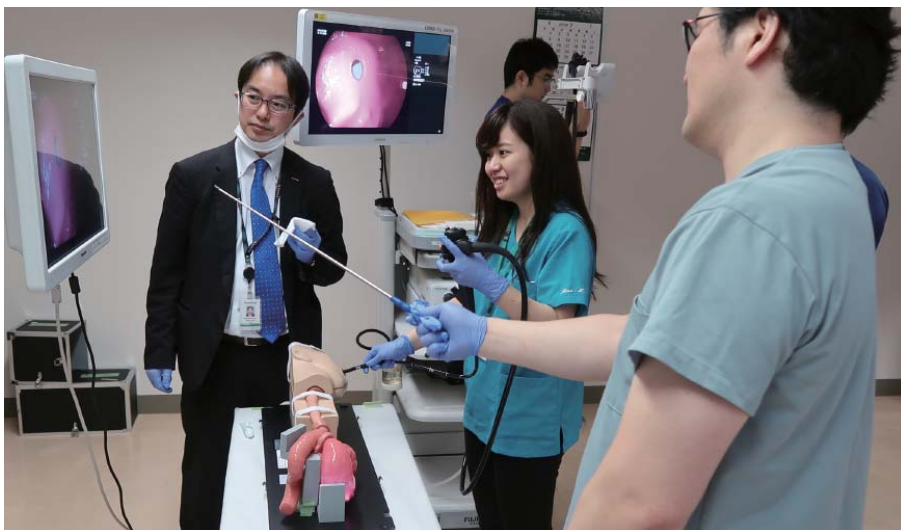
講義：ここまで見える！腹部超音波検査

講義：腹部超音波の操作基本

ミニクイズ：たかが腹単、されど腹単②

演習II：ハンズオン／7ブース

1.腹部超音波／2.上部消化管内視鏡／3.下部消化管内視鏡／4.ERCP／5.EST／6.ESD／7.ダブルバルーン



Experience 研修情報紹介

「神経・筋(神経難病)診療中級研修」

国立病院機構では、診療と研究の柱の1つとして神経・筋疾患に取り組み、全国にある多数の病院のネットワークを通して医療の向上に努めています。今回の「神経・筋(神経難病)診療中級研修」は、初級者ではなく、神経疾患関連のプロフェッショナルを目指す若手医師をターゲットにその魅力を伝え、次世代の診療の担い手を育成することを目的に企画しました。

中級者を対象とした研修のため、単に診療の知識や技術だけにとどまらず、幅広く深い内容をあえて盛り込んだのも、この研修の特徴です。

特定疾患制度の歴史を学び、慢性の神経疾患を抱える患者さんを地域でいかに支えるか。また、患者さんやご家族の視点で神経難病を考えるなどをテーマに、参加型のプログラムを盛り込み、機構病院らしい意欲的な内容をねらいました。2日目には、所属病院ではなかなか経験しないであろう、ALS医療に対するディベートを実施。1つのテーマを皆で掘り下げることができ、良い経験になったとの感想が多く、好評のうちに終了しました。

令和元年度 良質な医師を育てる研修

「神経・筋(神経難病)診療中級研修」

対象：神経内科後臨床研修医・専攻医・専修医
(日本神経学会認定専門医取得前後の医師)
卒後3年以上の者で神経内科領域に関心のある医師

日時：令和元年9月27日(金)～28日(土)

会場：国立病院機構静岡医療センター

参加者：15名

■ 研修内容

1日目

講義：難病医療概論
講義：神経所見を考える
講義：ディベートの説明
講義：神経疾患の症状・画像と病理
講義：一患者の経験から語る
講義：コミュニケーション機器の体験
意見交換会

2日目

講義：脳波判読のエッセンス
講義：次世代の脳神経内科に期待する
講義：ディベート (ALS医療)



参加者の声

〈参加者の声 1〉

神経症候学・画像病理・神経生理と多くの領域について、まんべんなく取り上げていただいたのが良かったです。すごく勉強になりました。

〈参加者の声 2〉

神経難病や神経系の症例について、歴史的背景も踏まえながら学ぶことができ、とても贅沢な2日間でした。ありがとうございました。

〈参加者の声 3〉

多彩なプログラムがあり、非常に有意義でした。特に脳波やディベートは大変勉強になりました。また、是非開催していただきたいです。

〈参加者の声 4〉

脳波や神経所見の取り方のレクチャーは初級者向けで大変分かりやすい内容でした。知らないことも多く、たくさんの気づきがありました。

〈参加者の声 5〉

2日目のディベートでは1つの問題について深く考えることができました。学ぶことが多く、運営してくださった先生方に感謝しています。

〈参加者の声 6〉

脳神経内科の診療に必要な所見、画像、病理といった知識や診療の仕方を臨床経験豊富な先生方から学ぶことができました。勉強しにくい内容も多く盛り込まれ、勉強になりました。

〈参加者の声 7〉

発作中の患者さんの動画が分かりやすく紹介され、ためになりました。難しい内容も多かったのですが、勉学に励むモチベーションになりました。

〈参加者の声 8〉

多岐に渡る神経疾患の講義が受けられ、患者さんの声が聞けたのが良かったです。明日からの診療に役立つ内容も多く実践的な研修でした。

